

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年11月9日

【四半期会計期間】 第118期第2四半期（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）

【会社名】 理研計器株式会社

【英訳名】 RIKEN KEIKI CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 松本 哲哉

【本店の所在の場所】 東京都板橋区小豆沢二丁目7番6号

【電話番号】 03(3966)1121（代表）

【事務連絡者氏名】 管理本部経理部長 前田 卓郎

【最寄りの連絡場所】 東京都板橋区小豆沢二丁目7番6号

【電話番号】 03(3966)1128

【事務連絡者氏名】 管理本部経理部長 前田 卓郎

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第117期 第2四半期 連結累計期間	第118期 第2四半期 連結累計期間	第117期
会計期間		自2022年4月1日 至2022年9月30日	自2023年4月1日 至2023年9月30日	自2022年4月1日 至2023年3月31日
売上高	(千円)	22,404,903	22,675,492	45,004,807
経常利益	(千円)	6,633,665	6,456,486	11,944,056
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	4,546,213	4,548,355	8,670,194
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	5,610,074	6,403,518	9,778,333
純資産額	(千円)	60,133,627	68,867,108	63,383,634
総資産額	(千円)	73,952,930	85,284,703	79,746,745
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	195.29	195.33	372.41
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	81.3	80.7	79.5
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	353,330	505,885	4,572,711
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	81,690	878,881	648,024
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	2,965,090	1,378,012	4,255,291
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	16,002,371	17,901,670	18,913,037

回次		第117期 第2四半期 連結会計期間	第118期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自2022年7月1日 至2022年9月30日	自2023年7月1日 至2023年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	84.38	86.52

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が5類への移行後一段と緩和される中で、緩やかな回復傾向にあります。

一方でロシア・ウクライナ情勢の長期化、急激な為替相場の変動、原材料価格やエネルギー価格の高騰に伴う物価上昇等により、引き続き先行きが不透明な経済情勢が続いております。

当社グループの属する産業用防災保安機器業界におきましては、半導体業界を始めとした主要顧客の設備投資は一定の投資で推移しましたが、部品の供給不足や物価上昇等が与える影響に十分注意する必要もあり、先行きについても当面の間は不透明な状況が続くと見込まれます。

このような情勢の中で、当社グループは、生産の合理化による原価低減、徹底した経費削減、積極的な営業活動の展開、新製品開発への積極的な投資、品質管理体制及びサービス体制の充実に継続して取り組んで参りました。

これらの諸施策の結果、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は226億7千5百万円（前年同四半期比1.2%増）、連結営業利益は58億4千7百万円（前年同四半期比8.8%減）、連結経常利益は64億5千6百万円（前年同四半期比2.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は45億4千8百万円（前年同四半期比0.0%増）となりました。

当社グループの事業は、各種産業用測定機器の製造・販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、セグメントごとの経営成績に代えて機種別の売上の状況を以下に記載いたします。

定置型ガス検知警報機器

当第2四半期連結累計期間の定置型ガス検知警報機器の連結売上高は、152億4千5百万円（前年同四半期比0.6%減）となりました。

可搬型ガス検知警報機器

当第2四半期連結累計期間の可搬型ガス検知警報機器の連結売上高は、68億8千9百万円（前年同四半期比6.4%増）となりました。

その他測定機器

当第2四半期連結累計期間のその他測定機器の連結売上高は、5億4千万円（前年同四半期比8.2%減）となりました。

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末と比較して55億3千7百万円増加し、852億8千4百万円（前連結会計年度末比6.9%増）となりました。流動資産につきましては、前連結会計年度末と比較して40億6千万円増加し、553億6千1百万円となりました。これは主に、原材料及び貯蔵品が20億5千1百万円増加したこと及び受取手形及び売掛金が10億5千2百万円増加したこと等によるものであります。固定資産につきましては、前連結会計年度末と比較して14億7千7百万円増加し、299億2千3百万円となりました。これは主に、投資有価証券が15億6千3百万円増加したこと、無形固定資産その他に含まれるソフトウェア仮勘定が2億5千3百万円増加したこと及び建物及び構築物が1億9千1百万円増加した一方で、建設仮勘定が3億2千5百万円減少したこと等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の負債につきましては、前連結会計年度末と比較して5千4百万円増加し、164億1千7百万円（前連結会計年度末比0.3%増）となりました。流動負債につきましては、前連結会計年度末と比較して4億8千1百万円減少し、135億4千2百万円となりました。これは主に、電子記録債務が2億8千4百万円増加した一方で、流動負債その他に含まれる未払金が6億1千6百万円減少したこと等によるものであります。固定負債につきましては、前連結会計年度末と比較して5億3千5百万円増加し、28億7千5百万円となりました。これは主に、固定負債その他に含まれる繰延税金負債が7億9千2百万円増加した一方で、長期借入金金が1億7千4百万円減少したこと等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末と比較して54億8千3百万円増加し、688億6千7百万円（前連結会計年度末比8.7%増）となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益45億4千8百万円を計上し、剰余金の配当が9億3千1百万円あった結果、利益剰余金が36億1千7百万円増加したこと等によるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比較して10億1千1百万円減少し、179億1百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益を64億5千6百万円、減価償却費を8億6千5百万円計上した一方で、棚卸資産の増加額が32億9千9百万円であったこと及び法人税等の支払額が17億7千4百万円であったこと等により、営業活動の結果獲得した資金は5億5百万円（前年同四半期は3億5千3百万円の使用）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の売却による収入10億4千7百万円、有価証券の償還による収入5億円及び定期預金の払戻による収入3億9千8百万円があった一方で、定期預金の預入による支出8億4千1百万円、有価証券の取得による支出7億7千4百万円、投資有価証券の取得による支出6億4百万円及び有形固定資産の取得による支出3億4千2百万円があったこと等により、8億7千8百万円と前年同四半期連結累計期間と比較して支出が7億9千7百万円の増加となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払額9億2千9百万円があったこと等により、13億7千8百万円と前年同四半期連結累計期間と比較して支出が15億8千7百万円の減少となりました。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 会社の支配に関する基本方針

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの会社の支配に関する基本方針について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発活動の金額は11億5千6百万円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	94,000,000
計	94,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年11月9日)	上場金融商品取引所名 または登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	23,661,000	23,661,000	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数100株
計	23,661,000	23,661,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日	-	23,661,000	-	2,565,500	-	2,545,508

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名または名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	2,882	12.38
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	1,702	7.31
Goldman Sachs Bank Europe SE, Luxembourg Branch (常任代理人 ゴールドマン・ サックス証券株式会社)	32-40 Boulevard Grande-Duchesse Charlotte, Luxembourg (東京都港区六本木六丁目10番1号 六本木ヒ ルズ森タワー)	1,206	5.18
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	1,200	5.15
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	1,135	4.87
理研計器協力会社持株会	東京都板橋区小豆沢二丁目7番6号	1,102	4.74
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	837	3.59
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東 京支店 カストディ業務部)	ONE CONGRESS STREET, SUITE 1, BOSTON, MASSACHUSETTS (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	750	3.22
長野計器株式会社	東京都大田区東馬込一丁目30番4号	711	3.05
理研計器従業員持株会	東京都板橋区小豆沢二丁目7番6号	692	2.98
計	-	12,221	52.48

- (注) 1. Forest Manor N.V.から2017年7月13日付で関東財務局長に提出された大量保有報告書により、2017年7月10日現在、1,301,355株(保有割合5.50%)を保有している旨の報告を受けております。しかし、当社として2023年9月30日現在における同社の実質所有株式数の確認ができないため上記大株主には含めておりません。
2. フィデリティ投信株式会社から2022年9月26日付で関東財務局長に提出された大量保有報告書の変更報告書により、2022年9月15日現在、2,217,900株(保有割合9.37%)を保有している旨の報告を受けております。しかし、当社として2023年9月30日現在における同社の実質所有株式数の確認ができないため上記大株主には含めておりません。
3. Symphony Financial Partners (Singapore) Pte. Ltd.から2023年2月22日付で関東財務局長に提出された大量保有報告書の変更報告書により、2023年2月22日現在、1,119,200株(保有割合4.73%)を保有している旨の報告を受けております。しかし、当社として2023年9月30日現在における同社の実質所有株式数の確認ができないため上記大株主には含めておりません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 373,600	-	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 23,274,900	232,749	単元株式数100株
単元未満株式	普通株式 12,500	-	-
発行済株式総数	23,661,000	-	-
総株主の議決権	-	232,749	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が100株含まれております。
また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 または名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
理研計器株式会社	東京都板橋区小豆沢 二丁目7番6号	373,600	-	373,600	1.58
計	-	373,600	-	373,600	1.58

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,605,281	13,472,647
受取手形及び売掛金	10,439,153	11,491,178
電子記録債権	3,713,877	3,834,462
有価証券	8,414,092	7,996,952
商品及び製品	3,584,070	4,296,658
仕掛品	6,039,294	6,731,431
原材料及び貯蔵品	4,532,924	6,583,998
その他	976,706	959,147
貸倒引当金	4,346	5,131
流動資産合計	51,301,053	55,361,344
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,826,073	11,017,166
機械装置及び運搬具(純額)	361,360	373,176
土地	4,150,454	4,135,501
建設仮勘定	409,421	84,193
その他(純額)	1,590,552	1,500,542
有形固定資産合計	17,337,862	17,110,580
無形固定資産		
のれん	510,481	460,122
顧客関連資産	805,777	791,011
その他	451,525	664,432
無形固定資産合計	1,767,784	1,915,566
投資その他の資産		
投資有価証券	6,033,462	7,596,554
退職給付に係る資産	1,827,197	1,857,883
その他	1,482,284	1,445,674
貸倒引当金	2,900	2,900
投資その他の資産合計	9,340,044	10,897,212
固定資産合計	28,445,691	29,923,359
資産合計	79,746,745	85,284,703

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,201,320	5,380,899
電子記録債務	847,302	1,131,906
短期借入金	995,000	975,000
未払法人税等	1,816,425	1,640,424
賞与引当金	988,058	992,688
製品保証引当金	106,260	109,791
受注損失引当金	152,203	17,770
その他	3,917,125	3,293,714
流動負債合計	14,023,696	13,542,195
固定負債		
長期借入金	850,580	676,460
資産除去債務	11,172	11,172
その他	1,477,661	2,187,767
固定負債合計	2,339,414	2,875,399
負債合計	16,363,110	16,417,594
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,565,500	2,565,500
資本剰余金	1,094,969	1,104,561
利益剰余金	56,626,968	60,243,986
自己株式	222,609	220,908
株主資本合計	60,064,829	63,693,139
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,982,144	2,972,197
為替換算調整勘定	1,336,660	2,201,771
その他の包括利益累計額合計	3,318,805	5,173,968
純資産合計	63,383,634	68,867,108
負債純資産合計	79,746,745	85,284,703

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
売上高	22,404,903	22,675,492
売上原価	10,426,788	10,945,930
売上総利益	11,978,115	11,729,562
販売費及び一般管理費	15,569,695	15,882,151
営業利益	6,408,419	5,847,411
営業外収益		
受取利息	32,285	50,839
受取配当金	60,895	71,045
為替差益	352,391	358,744
受取保険金及び配当金	8,237	30,876
有価証券売却益	19,133	-
有価証券評価益	-	241,654
雑収入	42,149	39,162
営業外収益合計	515,093	792,322
営業外費用		
支払利息	22,126	20,877
固定資産除却損	0	561
有価証券売却損	17,430	161,488
有価証券評価損	243,299	-
雑損失	6,990	319
営業外費用合計	289,847	183,247
経常利益	6,633,665	6,456,486
特別利益		
固定資産売却益	2,559	5,550
特別利益合計	2,559	5,550
特別損失		
固定資産売却損	1,141	5,666
減損損失	26,160	-
投資有価証券評価損	79,528	-
固定資産処分損	102,000	-
特別損失合計	208,830	5,666
税金等調整前四半期純利益	6,427,394	6,456,370
法人税、住民税及び事業税	1,759,373	1,584,950
法人税等調整額	128,647	323,064
法人税等合計	1,888,020	1,908,015
四半期純利益	4,539,373	4,548,355
非支配株主に帰属する四半期純損失()	6,840	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,546,213	4,548,355

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
四半期純利益	4,539,373	4,548,355
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	147,443	990,052
為替換算調整勘定	1,218,144	865,111
その他の包括利益合計	1,070,700	1,855,163
四半期包括利益	5,610,074	6,403,518
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,489,350	6,403,518
非支配株主に係る四半期包括利益	120,723	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,427,394	6,456,370
減価償却費	852,809	865,973
のれん償却額	90,484	90,712
減損損失	26,160	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	629	419
賞与引当金の増減額(は減少)	375,391	4,629
製品保証引当金の増減額(は減少)	13,347	3,531
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	37,867	30,685
受注損失引当金の増減額(は減少)	7,023	134,432
受取利息及び受取配当金	93,181	121,885
受取保険金	8,237	30,876
支払利息	22,126	20,877
為替差損益(は益)	767,688	384,827
固定資産売却損益(は益)	1,417	116
固定資産除却損	0	561
固定資産処分損益(は益)	102,000	-
売上債権の増減額(は増加)	1,964,992	915,152
棚卸資産の増減額(は増加)	2,162,407	3,299,212
仕入債務の増減額(は減少)	842,025	233,848
未払消費税等の増減額(は減少)	470,044	92,362
有価証券売却損益(は益)	1,703	161,488
有価証券評価損益(は益)	243,299	241,654
投資有価証券評価損益(は益)	79,528	-
その他	492,011	739,737
小計	1,371,925	2,032,426
利息及び配当金の受取額	94,450	123,426
利息の支払額	22,126	20,877
保険金の受取額	19,135	145,418
法人税等の支払額	1,816,714	1,774,507
営業活動によるキャッシュ・フロー	353,330	505,885

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	792,292	774,407
有価証券の売却による収入	263,399	1,047,744
有価証券の償還による収入	1,049,050	500,000
定期預金の預入による支出	414,000	841,700
定期預金の払戻による収入	414,000	398,700
有形固定資産の取得による支出	363,014	342,035
有形固定資産の売却による収入	8,869	24,799
有形固定資産の除却による支出	102,000	-
無形固定資産の取得による支出	36,170	323,412
投資有価証券の取得による支出	109,531	604,883
貸付金の回収による収入	-	36,313
投資活動によるキャッシュ・フロー	81,690	878,881
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	194,120	194,120
ファイナンス・リース債務の返済による支出	229,860	253,570
自己株式の純増減額(は増加)	349	694
配当金の支払額	906,169	929,627
非支配株主への配当金の支払額	25,701	-
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	1,608,888	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,965,090	1,378,012
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,174,065	739,641
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,226,046	1,011,366
現金及び現金同等物の期首残高	17,989,503	18,913,037
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	238,914	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 16,002,371	1 17,901,670

【注記事項】

(会計方針の変更)

(在外子会社の収益及び費用の換算方法の変更)

在外子会社の収益及び費用は、従来、当該在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、第1四半期連結会計期間より期中平均相場により円貨に換算する方法に変更しております。

この変更は、在外子会社の収益及び費用の重要性が増加してきたため、一時的な為替相場の変動による期間損益への影響を緩和し、会計期間を通じて発生する在外子会社の損益をより適切に連結財務諸表に反映させるために行ったものであります。

なお、この変更による影響額は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
受取手形	- 千円	22,737千円
電子記録債権	-	96,440

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
支払手数料	467,410千円	611,463千円
広告宣伝費	140,204	203,121
給料及び手当	1,363,170	1,498,324
賞与引当金繰入額	378,538	292,411
退職給付費用	50,706	53,312
研究開発費	1,197,049	1,156,975
減価償却費	307,225	318,462

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金勘定	10,495,733千円	13,472,647千円
有価証券勘定	8,658,533	7,996,952
預入期間が6か月を超える定期預金	1,093,361	1,570,976
償還期限が6か月を超える有価証券	2,058,533	1,996,952
現金及び現金同等物	16,002,371	17,901,670

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月12日 取締役会	普通株式	907,777	39.00	2022年3月31日	2022年6月8日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月10日 取締役会	普通株式	931,338	40.00	2022年9月30日	2022年12月8日	利益剰余金

3. 株主資本の金額の著しい変動

当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であるRKI Instruments, Inc.の株式を非支配株主から追加取得したこと等により、資本剰余金が803,415千円減少しております。

その結果、当第2四半期連結会計期間末において資本剰余金が1,081,772千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年5月11日 取締役会	普通株式	931,337	40.00	2023年3月31日	2023年6月7日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年11月9日 取締役会	普通株式	931,494	40.00	2023年9月30日	2023年12月7日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

当社グループの事業は、各種産業用測定機器の製造・販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

当社グループの事業は、各種産業用測定機器の製造・販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

当第2四半期連結会計期間末(2023年9月30日)

金融商品は、企業集団の事業の運営において重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

当第2四半期連結会計期間末(2023年9月30日)

有価証券は、企業集団の事業の運営において重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

当第2四半期連結会計期間末(2023年9月30日)

デリバティブ取引は、企業集団の事業の運営において重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
定置型ガス検知警報機器	15,341,117	15,245,216
可搬型ガス検知警報機器	6,475,194	6,889,664
その他測定機器	588,591	540,611
顧客との契約から生じる収益	22,404,903	22,675,492
その他の収益	-	-
外部顧客への売上高	22,404,903	22,675,492

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	195円29銭	195円33銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	4,546,213	4,548,355
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	4,546,213	4,548,355
普通株式の期中平均株式数(千株)	23,279	23,285

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2023年11月9日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

中間配当による配当金の総額 931,494千円

1株当たりの金額 40円00銭

支払請求権の効力発生日及び支払開始日 2023年12月7日

(注) 2023年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月9日

理研計器株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 茂木 浩之

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 桂 雄一郎

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている理研計器株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、理研計器株式会社及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。